

令和5年3月24日

## 卒業式式辞

温かな春の日差しにつつまれ桜の花も満開です。

皆さん、ご卒業おめでとうございます。今、皆さんに卒業証書を渡しました。この卒業証書は、小学校六年間の全課程を修了した証（あかし）です。皆さんは、この六年間で多くのことを学びました。勉強だけでなく、様々な行事を通して、心も体も大きく成長しました。中学生になる準備は万全です。幡代小学校で培った力を中学校でも存分に発揮してください。

保護者の皆様、入学した時は、小さかった子供たちがこのように大きく立派に成長し、卒業の日を迎えました。入学してからあつという間のようにでしたが、振り返れば、六年間に様々なことがあったことと思います。お子様のご卒業、誠におめでとうございます。そして、本日までの六年間、特にこの三年間は、様々な制限がある中、ご理解ご協力をいただいたことに深く感謝いたします。ありがとうございました。

来賓の皆様、本日はご多用の中、ご参列いただき、誠にありがとうございます。本日、一〇七名の子供たちが幡代小学校を卒業いたします。それぞれの中学校に進学いたしますが、地域の子供であることに変わりはありません。今後ご指導ご支援をよろしくお願いいたします。

卒業生の皆さん、皆さんは、本当によくがんばりました。できないこと、制限されたことが続く中で、できることを精一杯やり遂げました。鼓笛隊も練習時間は短かったのに素晴らしい演奏でした。運動会にしても、はやしろフェスタにしても、その時できる最高の姿を見せてくれました。そして、最初で最後の宿泊行事になった日光高原学園も全力でした。

できない中だったからこそ、制限があったからこそ、皆さんだったからこそ、充実した小学校生活にできたのだと思います。これからも様々な壁が皆さんの前に立ちだかることと思います。その壁を乗り越え、新しい世界を切り開いていってください。

ただ、どうしても一人では乗り切れないこともあると思います。その時は、まわりの人に遠慮なく助けを求めてください。皆さんは一人ではありません。友達もいます。お父さん、お母さん、家族、地域の方、そして、幡代小学校の先生たちは、どんな時でも皆さんの味方です。いつでも応援しています。

皆さんが、中学校、そして、さらに広い世界で活躍することを期待して式辞いたします。

令和五年三月二十四日

渋谷区立幡代小学校 校長 加納一好